

平成27年度第2回我孫子市廃棄物基本問題調査会議事概要

1. 会議の名称 我孫子市廃棄物基本問題調査会
2. 開催日時 平成27年9月28日(月) 午前9時30分から
3. 開催場所 我孫子市議会棟1階 B会議室
4. 出席委員 染谷正行(会長)、鈴木正己(副会長)、鈴木泰子、米川栄子、高橋美知代、若王子範文、関口均、金井義昌、井下田猛、中野優、小林等、横山悦子(以上12人)
欠席委員 土屋耕平(以上1人)
事務局(市) 宮田環境経済部参与、増田課長、伊藤課長補佐、川口主査長、竹内主査長、野村主査長、松澤主査
説明員 吉田徹(株式会社環境技術研究所 東京支店)
5. 議題 (1) 会長及び副会長の選出について
(2) 我孫子市における一般廃棄物対策計画(原案)について
(3) 新たな廃棄物処理施設の整備計画について
6. 公開 公開
7. 傍聴人 なし
8. 会議の内容
(1) 会長及び副会長の選出について
会長に染谷正行委員、副会長に鈴木正己委員を選出した。

(2) 我孫子市における一般廃棄物対策計画(原案)について
一般廃棄物対策計画の原案について、事務局から当日資料の説明を行った。
【主な質疑回答】
委員 前回の計画策定時と環境の変化があると思われる。この計画で伝えたいことは端的にどういうことか。
事務局 ごみの総排出量は目標を上回って削減できたため、さらなる削減を進め、資源化率は大きく下がったものを復元していくという目標を設定した。
委員 現在は年間15億円の費用をかけて清掃事業を行っているとのことだが、新たな施設の整備により、中長期的にどのぐらいかかるのか、市民の関心事でもあるので教えていただきたい。
事務局 ゼネコンの建設工事費が高止まりしており、プラントメーカー各社に調査したところ、我孫子市の規模で120億円弱の施設整備費がかかると回答を得ている。費用面の工夫としては、運営と維持整備を長期間でお願いして費用を圧縮しつつ負担を平準化すると

か、発電した電気を売って歳入にするなどの方法を考えている。最も大きな違いは、この計画の最終年度では新たな可燃ごみ施設が建っているという点になる。

委員
事務局 新たな可燃ごみ処理施設が建った後、この計画は見直すのか。
平成 33 年度に次の 10 か年で新たな計画を策定する。ここでは、資源化と破碎処理を行う施設の整備を見据える。

委員
事務局 剪定枝木等を減量化するために、資源化の再開や焼却は考えられないか。

事務局 枝木に含まれる放射性物質は少なくなっていると考えますが、雑草に付着する土の中の放射性セシウムがまだ多いと思われ、こちらを可燃ごみに戻すと支障が出るのではないかと危惧している。なお、燃やせないごみといっても、年間発生量の 5 分の 2 程度は、調整しながら焼却することで減量化している。

委員
事務局 市民の意識を高めることが必要であり、子どもにもわかるように、こんな取り組みで 1 人 100 グラム減らせますよという視覚に訴えるような啓発をしてもらえると、家庭の話題になってごみの削減にもつながると考える。

事務局 学校教育と連携して啓発を進めていきたいという考えはあり、広報の活用も進めていきたい。現在のクリーンセンターは、施設見学に適していないので、新たな施設では見学ルートの設定とごみを持ち込むためだけではない、ふれあい工房が持つ機能をここに取り込んでいくことも考えたい。

委員
事務局 千葉市がごみ袋有料化によってごみの減量を進めていくというニュースを見た。我孫子市ではどのように検討していくのか。

事務局 我孫子では、昭和 50 年代に分別に取り組んでから一貫して、集積所の管理も含めて、市民の力でごみが出る量が少なかったという経緯があり、ごみ質分析などでも、金属が可燃ごみに入っていることなどが非常に少ない。まずは事業所のごみ減量に取り組んでいきたい。

ただ、そういった中でも家庭系のごみが増え続けることがあった場合に、ごみを削減するための有料化になりますので、そこまでしなければいけない状況になるのかどうかは今後の検討ということにさせていただきたい。経費は有料化で袋代に乘せるお金よりもかかってしまうので、ごみを減らさなければいけないという状況の中で取り組みたいと考えている。

委員 子どもたちが授業で発表したものを行政で活用できるなら、子ど

- もたちの真剣な学習と意識の向上につながると考える。
- 委員 雑紙が可燃ごみとして出てしまっているという説明があったが、家庭からの排出方法を見直したりすることによって、もっと資源として出てくるのではないか。
- 委員 200 世帯のマンションに住んでいるが、その規模と比較して雑紙が資源に出されていないと実感している。個人情報を書かれたものはシュレッダーをかけなければ安心できないこともありますが、雑紙が結構お金になるということを周知して、資源に出してもらえるように広報を強化してほしい。
- 事務局 雑紙については、委員からのご提案のとおり、可燃ごみに出さないようにしていただくために啓発を含めて効果的な方法を研究していきたい。
- 委員 放射能の弁償金について、柏市では東京電力に請求してもほんの一部しか補償してもらえなかったという報道に接したが、我孫子市ではどうか。
- 事務局 クリーンセンターで発生した費用については、東京電力の補償金で基本的に全ていただいている。ただし、除染については国の基準に基づく交付金があるが、国の基準よりも丁寧に除染した費用については、現在は東京電力の支払い対象になっておらず、対象になるように検討と対応を進めています。
- 委員 集積所のあり方はどのように考えているか。
- 事務局 集積所については、必要なものでありながら、いざそれが自分の家の目の前にあると嫌だという方が増えている。土地を確保した集積所と道路上に集積する場合があります、特に後者については、今後、周りの方々の集積所に対する考え方ですとか、通行の支障ですとか、そういったところから、移動等の話が増えてくると考える。そういった部分のあり方を、他市町村の事例等を参考にしながら検討していかなければいけない。
- 委員 PPPとはどういうことか。
- 説明員 民間のノウハウを利用した事業を総括したものがPPP。その中には、デザイン・ビルド・オペレーションなど複数のパターンで公民とのかかわり方が違うパターンがある。全てを総称してPPPといい、来年度はPPPの中のどれがいいかという作業を進めていく。

(3) 新たな廃棄物処理施設の整備計画について

新たな廃棄物処理施設の整備計画について、事務局から説明を行った。